



線維筋痛症

今回は、線維筋痛症についてお話したいと思います。耳慣れない言葉ですよ。最近、女子アナウンサーの方の事件で初めてこの病気を知った人もおられるでしょうが、ご存知ですか。線維筋痛症は、全身に激しい痛みが起こる病気で、原因がわからないため治療困難な病気です。中高年の女性に多く、患者数は、現在人口の約2%、全国で200万人と推定されています。

症状は？

痛みは首から肩にかけての痛みやしびれ、両上下肢の痛み、腰背部の痛みやこわばり、臀部から太ももにかけての痛みや張りが、広範囲または局所的に生じ、その他全身の倦怠感・疲労感、不眠、抑うつ、頭痛など多彩な症状を認めます。このため、自律神経失調症や更年期障害などと診断されることも多くあります。また、しばしば膠原病などの自己免疫疾患を合併する事があります。

診断方法は？

1990年に発表されたアメリカリウマチ学会の分類基準を参考に診断されます。全身にある18箇所の圧痛点部のうち11箇所以上が痛く、この広範囲の痛みが3ヶ月以上続く場合に線維筋痛症と診断されます。血液検査では異常は認めません。

また、レントゲン、CTスキャンあるいはMRIでも異常所見はなく、この病気を診断出来る特別な検査は今の所ありません。

原因は？

不眠や精神的ストレスなどが関係しているとも言われていますが、まだはっきり解っていません。アメリカでは、中枢神経の異常によって痛みが増幅されているのではないかと考えられています。

治療法は？

残念ながら特効薬はありません。普通の痛み止めは効かない事が多く、脳内の痛みをコントロールする目的で抗うつ剤などを使う場合もあります。

最後に

線維筋痛症は生命にかかわる病気ではありません。通常、数ヶ月から1~2年で症状が改善される方が多いようですが、なかには数年たっても症状が良くならず日常生活に支障をきたす患者さんも存在します。このため、この病気は長期にわたって根気よく治療する事が大切です。

【広報おかや9月号】